

# 調査の趣旨と分析の方法

## 1 調査の趣旨

### (1) 趣 旨

「静岡県多文化共生推進基本条例」（平成 20 年条例第 59 号）に基づき、平成 22（2010）年秋を目途に策定する「ふじのくに（静岡）多文化共生推進基本計画」の基礎資料とするため、日本人県民と外国人県民の双方を対象に、その生活実態や多文化共生に関する意識等を把握するため、アンケート調査を実施した。

調査は多文化共生室が実施し、結果集計、分析及び報告書作成は静岡文化芸術大学文化政策学部池上重弘教授へ委託した。

### (2) 調査の概要

#### ア 対象者等

（単位：人、％）

対象者	県内に住民登録又は外国人登録のある 16 歳以上の県民
対象国籍	日本及び県内外国人登録者数 2,000 人以上の 7 か国（全体の 92.4％） 7 か国の内訳：ブラジル、中国、フィリピン、ペルー、韓国・朝鮮、インドネシア、ベトナム
対象市町	対象国登録者数 2,000 人以上の 12 市（全体の 79.7％） 西部－浜松市、磐田市、掛川市、菊川市、袋井市、湖西市、牧之原市 中部－静岡市、焼津市 東部－沼津市、富士市、御殿場市
抽出方法	対象市に対し、日本人は住民基本台帳から、外国人は外国人登録台帳から国籍別に無作為抽出した、住所と氏名等のデータを受領

#### イ 抽出数等

種 別	抽出数
外国人	10,000
日本人	3,000
計	13,000

#### ウ 国別対象者数

各国の標本数を最低 1,000 以上となるよう割当無作為抽出

国 籍	全登録者	上位 12 市町	標本数	抽出率(%)
ブラジル人	51,563	46,920	4,000	8.5
中国人	13,707	10,863	1,000	9.2
フィリピン人	12,563	9,679	1,000	10.3
ペルー人	6,564	5,474	1,000	18.3
韓国・朝鮮人	6,403	5,284	1,000	18.9
インドネシア人	2,612	2,257	1,000	44.3
ベトナム人	2,075	1,820	1,000	54.9
計	95,487	82,297	10,000	

（平成 20 年 12 月末現在 多文化共生室調べ）

## エ 市別対象者数（各市の抽出数は人口比で按分）

番号	市名	外国人計	ブラジル	中国	フィリピン	ペルー	韓国・朝鮮	インドネシア	ベトナム	日本人
	県内計	10,000	4,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	3,000
1	浜松市	4,052	1,618	311	337	436	314	477	559	888
2	磐田市	988	632	69	76	39	28	113	31	187
3	静岡市	1,122	121	203	124	28	341	135	171	807
4	掛川市	553	318	35	75	57	17	42	9	130
5	富士市	569	175	86	70	92	103	17	26	284
6	菊川市	392	270	26	45	24	6	2	19	50
7	袋井市	429	253	43	27	25	16	36	29	94
8	湖西市	503	208	18	19	101	10	105	42	47
9	沼津市	499	31	97	97	78	89	23	85	230
10	焼津市	368	113	67	54	47	30	44	11	130
11	御殿場市	332	134	20	56	63	41	1	18	98
12	牧之原市	193	127	25	20	10	5	5	0	55

## オ 調査期間

調査は、平成 21（2009）年 8 月 11 日からアンケートを送付し、9 月 18 日までの 1 か月間実施した。

## カ 回収結果

国名	有効数 <sup>1)</sup>	回収数	回収率 <sup>2)</sup> (%)	日本語版回答率 <sup>3)</sup> (%)
ブラジル	3,236	841	26.0	13.9
中国	954	279	29.2	32.3
フィリピン	902	209	23.2	14.4
ペルー	834	183	21.9	11.7
韓国・朝鮮	943	264	28.0	80.1
インドネシア	913	223	24.4	16.7
ベトナム	923	186	20.2	42.9
<b>外国人計</b>	<b>8,705</b>	<b>2,185</b>	<b>25.1</b>	<b>21.2</b>
<b>日本人</b>	<b>2,974</b>	<b>1,772</b>	<b>59.6</b>	-
合計	11,679	3,957	-	-

1) 有効数は送付数から未達数を引いた数

2) 回収率は有効数に占める回収数の割合

3) 日本語版回答率は回収数に占めるルビ付き日本語調査票での回答者数の割合

## キ 日本人調査項目

基本意識	多文化共生についての認識
外国人に対する認識	外国人への親しみの度合い、外国人が増えることへの賛否、影響の評価
外国人との共生	多文化共生に関する意見について、日本人がなすべきこと
行政サービス	行政が取り組むべきこと

## ク 外国人調査項目

雇用・労働状況	現在の仕事、主な収入源、正規職員としての雇用の希望、正規雇用を希望しない場合その理由、現在の職業、勤務形態、勤務先の従業員規模、勤続期間、労働時間、仕事で困っていること、月収、世帯年間収入、支払い状況
日常生活	日本人との付き合い、団体・活動への参加状況、町内会・自治会不参加の理由、利用するメディア、利用する施設・公共サービス、相談相手、日常生活の満足度、日常生活の不安度、被差別感、住居に関して困ったこと
日本語学習	日本語能力、日本語の必要性、現在の日本語学習状況、日本語学習の希望、希望する日本語学習場所、日本語学習で困っていること
医療・保険	病気やけがをした時の対処方法、病院での言葉の問題への対応、病気になった時困ったこと、健康保険への加入状況、健康保険未加入の理由、年金への加入状況、年金未加入の理由、雇用保険加入状況、雇用保険未加入の理由
防災	緊急時の防災対策、防災訓練への参加、東海地震
日本人とのトラブル	日本人とのトラブル、日本人とのトラブルの原因、トラブル時の対応
母国との関係	日本での滞在予定、帰国を決意するための条件
行政サービス	市役所や県への期待、具体的な行政サービス情報
配偶者との関係	配偶者の国籍、配偶者の従業上の地位、配偶者からのDV、DVの相談相手
子どもの教育	子どもの就学状況、就学先の学校、子どもの教育に関する悩み、子どもの将来に関する希望

## 2 分析の方法

### (1) 本調査での抽出語の調査結果に関する重みづけについて

調査対象者の抽出に際しては、対象となった国籍の人を同じ確率で抽出するのではなく、登録者数の少ない国籍を考慮する形で抽出した（割当無作為抽出）。計画された標本数は、静岡県内でも人口の多いブラジルを4000とし、他の国籍を人口構成に関わらず、1000ずつ抽出する形をとった。その結果、国籍によって抽出確率に大きな違いが生じている。

表1に示したとおり、最終的に回収された調査票の構成比と母集団の構成比を比較すると、ブラジルやフィリピンが過小に代表され、インドネシアとベトナムが過大に代表されていることが分かる。そのため、サンプルの国籍別の構成比と母集団の国籍別の構成比が等しくなるよう、再度の重みづけを行っている。本報告書の基本的な記述は、すべての対象国籍の結果を合算し

たものを用いており、表1の一番右側の重みづけを乗じたものを、結果としてまとめている。

ただし、調査結果に対して重みづけを行うと、単純集計の度数は整数ではなく小数値を含むものとなるため、本報告書においては各項目の度数を四捨五入して整数の形で表示した。この手続きをとったことにより、各項目の度数の合計が有効回収数(2,185)と合致せず±1程度の誤差が生じる場合があるし、各項目のパーセントの合計が100%とならない表が、いくつかみられる。これらはいずれも、重みづけ後の小数値を四捨五入した結果生じているものであることを、あらかじめ確認しておきたい。

表1 国籍別の母集団の構成比、サンプルの構成比と調査結果の重みづけ

国名	静岡県				サンプル			
	内の全 登録者	上位12 市町	構成 比%	抽出 標本数	抽出 率%	回収数	サンプルの 構成比%	weight back
ブラジル	51,563	46,920	57.0	4,000	8.5	841	38.5	1.481
中国	13,707	10,863	13.2	1,000	9.2	279	12.8	1.034
フィリピン	12,563	9,679	11.8	1,000	10.3	209	9.6	1.230
ペルー	6,564	5,474	6.7	1,000	18.3	183	8.4	0.794
韓国又は朝鮮	6,403	5,284	6.4	1,000	18.9	264	12.1	0.531
インドネシア	2,612	2,257	2.7	1,000	44.3	223	10.2	0.269
ベトナム	2,075	1,820	2.2	1,000	54.9	186	8.5	0.260
計	95,487	82,297	100.0	10,000		2185	100.0	

## (2) 調査の受託者及び研究チームの構成 (【 】内は本報告書の執筆分担)

### 調査受託者

池上重弘 (静岡文化芸術大学文化政策学部教授) 【日本人調査】

### 研究協力者

イシカワ エウニセ アケミ (静岡文化芸術大学文化政策学部准教授)

竹ノ下弘久 (静岡大学人文学部准教授)

#### 【外国人調査】

(基本属性、雇用・労働状況、日常生活、防災、日本人とのトラブル)  
千年よしみ (国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第一室長)

#### 【外国人調査】

(日本語学習、医療・保険、母国との関係、行政サービス、配偶者との関係、子どもの教育)